健康への意識を！

～国民健康保険～

平成26年度の医療費の状況がまとまりましたので、国民健康保険（国保）の決算状況とあわせてお知らせします。なお、社会保険（社保）に加入されている方もぜひご覧ください。

財政ひっ迫！一般会計から3年連続赤字補てん

■ 1人当たりの医療費は年40万円超で毎年上昇！ 高齢化も進む！

- 市全体の人口は毎年500～600人減少
- 国保加入者も毎年400人程度減少
- 国保加入率は全体の32％で約12,300人
- 加入者の50％は60～74歳（下表赤枠）
- **国民皆保険の制度上、市町村国保は会社を定年退職された方が加入するため、60歳以上の加入者割合は今後も引き続き増加の見込み**

国保加入者数の状況

区　分	南九州市人口	被保険者数	国保加入率	【参考】後期高齢者医療		その他の保険
				被保険者数	加入率	加入率
24年度	39,096人	13,126人	33.6%	8,583人	22.0%	44.4%
25年度	38,564人	12,753人	33.1%	8,551人	22.2%	44.7%
26年度	37,961人	12,302人	32.4%	8,434人	22.2%	45.4%

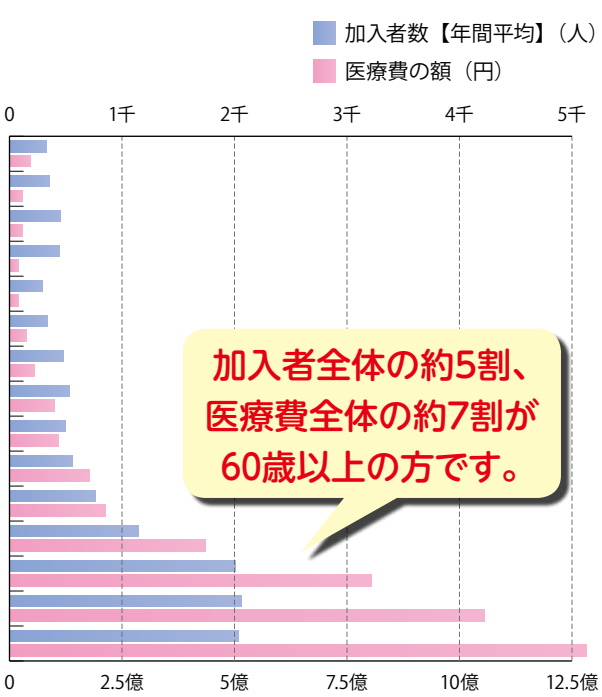
医療費の状況

区　分	医療費総額	1人当たり	前年比	県平均	前年比	全国平均
24年度	51億4,253万円	391,782円	2.62%	369,295円	1.90%	315,856円
25年度	51億1,735万円	401,267円	2.42%	381,547円	3.32%	324,543円
26年度	50億　197万円	406,598円	1.33%	393,564円	3.15%	（未公表）

- 加入者が減ってもあまり減らない医療費総額
- 毎年増え続けている1人当たりの医療費
- 平成26年度では約406,600円（県平均を13,000円超）
- ここ数年の伸びは県平均に比べ鈍化傾向

年齢階層別医療費の状況（26年度）

年齢階層	医療費	レセプト件数	患者数	患者1人当たりの医療費	加入者数【年間平均】	加入者の構成比	医療費の構成比
0～ 4歳	4,622万円	5,666件	350人	132,062円	327人	2.66%	1.05%
5～ 9歳	2,806万円	4,416件	368人	76,259円	355人	2.89%	0.64%
10～14歳	2,965万円	4,022件	437人	67,844円	451人	3.67%	0.67%
15～19歳	1,935万円	2,502件	366人	52,861円	443人	3.60%	0.44%
20～24歳	1,954万円	1,412件	245人	79,773円	297人	2.41%	0.44%
25～29歳	3,752万円	2,428件	290人	129,373円	342人	2.78%	0.85%
30～34歳	5,601万円	3,350件	383人	146,250円	478人	3.88%	1.27%
35～39歳	9,989万円	4,384件	429人	232,843円	531人	4.32%	2.26%
40～44歳	1億　879万円	4,729件	379人	287,055円	498人	4.05%	2.47%
45～49歳	1億7,727万円	5,281件	401人	442,059円	561人	4.56%	4.02%
50～54歳	2億1,252万円	8,109件	583人	364,524円	764人	6.21%	4.82%
55～59歳	4億3,475万円	13,759件	915人	475,135円	1,147人	9.32%	9.85%
60～64歳	**8億　470万円**	**30,717件**	**1,725人**	**466,491円**	**2,009人**	**16.33%**	**18.24%**
65～69歳	**10億5,486万円**	**40,925件**	**1,961人**	**537,921円**	**2,060人**	**16.75%**	**23.91%**
70～74歳	**12億8,246万円**	**57,227件**	**2,258人**	**567,961円**	**2,039人**	**16.57%**	**29.07%**
計	44億1,159万円	188,927件	11,090人	397,799円	12,302人	100%	100%



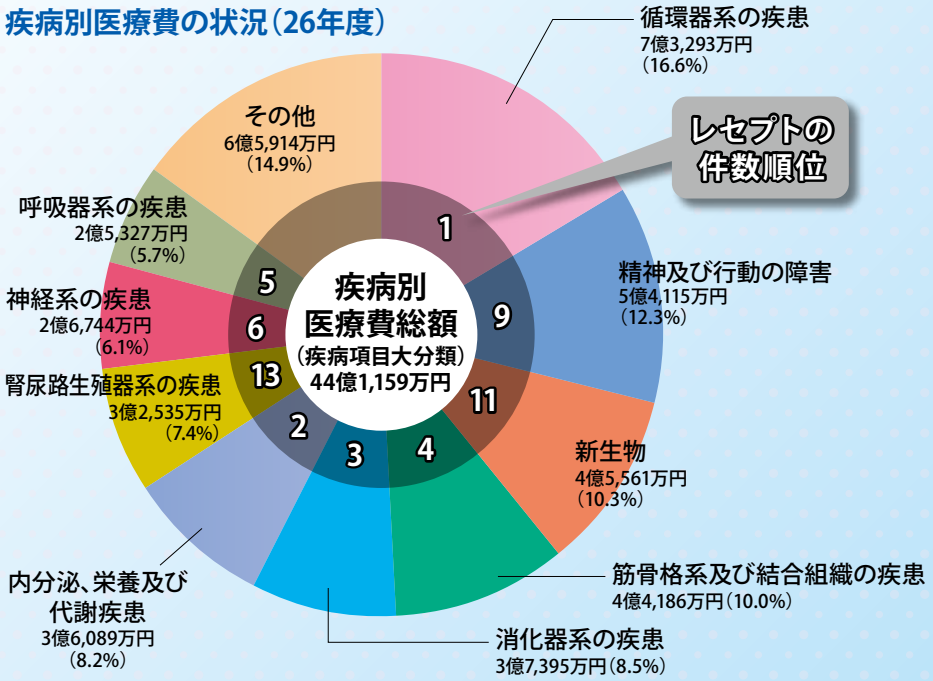
対象は医科、調剤の電子レセプトのみ。対象診療年月は平成 26 年 3 月～平成 27 年 2 月分（12 カ月分）。
※レセプトとは…医療機関が患者ごと、月ごとに作成し、市（保険者）へ請求する医療費明細書のこと。

- 60～74歳の方に要した医療費が全体の71％、55歳以上となると実に80％超に
- 一方、39歳以下の若い世代の医療費は全体の8％、4歳までの乳幼児の医療費も年間1人当たり約13万円ほど

年齢とともに医療費がかさんでくるのはある意味当然のことですが、その原因はどのようなものなのでしょうか。次のページでもう少し詳しく見てみましょう。

■こんな病気に医療費がかかっています

疾病別医療費の状況（26年度）



疾病項目（大分類）	主な疾患
循環器系の疾患	高血圧性疾患、狭心症、心筋梗塞、脳卒中　など
精神及び行動の障害	統合失調症、うつ病、ストレス障害　など
新生物	各種がん、白血病、悪性リンパ腫　など
筋骨格系及び結合組織の疾患	関節症、椎間板障害、骨粗しょう症　など
消化器系の疾患	胃炎、胃潰瘍、肝硬変、直腸ポリープ　など
内分泌、栄養及び代謝疾患	糖尿病、甲状腺障害など
腎尿路生殖器系の疾患	腎不全、膀胱炎、前立腺肥大　など
神経系の疾患	パーキンソン病、アルツハイマー病、てんかん　など
呼吸器系の疾患	風邪〈感冒〉、肺炎、喘息など

・医療費は高血圧性疾患、心筋梗塞、脳卒中（脳梗塞・脳出血）などの「**循環器系の疾患**」が、医療機関にかかる度合いを示すレセプト件数とともに第1位、次いで「**精神及び行動の障害**」、「**新生物**」、「**筋骨格系及び結合組織の疾患**」の順
・糖尿病に代表される「**内分泌、栄養及び代謝疾患**」は、レセプト件数で第2位（医療費では第6位）
・日ごろの良くない生活習慣が要因となっておこる疾病が上位に

【参考】七大生活習慣病：がん、心筋梗塞、脳卒中、糖尿病、高血圧性疾患、肝硬変、慢性腎不全

各年齢階層における医療費のかかった病類（上位１～２位）

年齢階層	医療費を最も要した病類				医療費が2番目に高かった病類				加入者数【年間平均】
	疾病項目（大分類）	医療費 金額	医療費 総額に占める割合	患者数	疾病項目（大分類）	医療費 金額	医療費 総額に占める割合	患者数	
0～ 4歳	呼吸器系の疾患	2,416万円	52.3%	325人	感染症及び寄生虫症	468万円	10.1%	234人	327人
5～ 9歳	呼吸器系の疾患	1,545万円	55.0%	339人	皮膚及び皮下組織の疾患	253万円	9.0%	188人	355人
10～14歳	呼吸器系の疾患	1,150万円	38.8%	360人	損傷、中毒及びその他外因	558万円	18.8%	150人	451人
15～19歳	呼吸器系の疾患	511万円	26.4%	238人	損傷、中毒及びその他外因	237万円	12.2%	101人	443人
20～24歳	消化器系の疾患	418万円	21.4%	67人	呼吸器系の疾患	284万円	14.5%	129人	297人
25～29歳	精神及び行動の障害	804万円	21.4%	38人	呼吸器系の疾患	418万円	11.1%	160人	342人
30～34歳	精神及び行動の障害	1,366万円	24.4%	44人	呼吸器系の疾患	785万円	14.0%	225人	478人
35～39歳	精神及び行動の障害	3,459万円	34.6%	70人	腎尿路生殖器系の疾患	1,139万円	11.4%	87人	531人
40～44歳	精神及び行動の障害	3,031万円	27.9%	85人	腎尿路生殖器系の疾患	1,425万円	13.1%	69人	498人
45～49歳	精神及び行動の障害	3,751万円	21.2%	84人	腎尿路生殖器系の疾患	1,879万円	10.6%	104人	561人
50～54歳	精神及び行動の障害	5,167万円	24.3%	113人	循環器系の疾患	3,106万円	14.6%	257人	764人
55～59歳	精神及び行動の障害	8,028万円	18.5%	154人	循環器系の疾患	6,090万円	14.0%	471人	1,147人
60～64歳	循環器系の疾患	1億3,780万円	17.1%	1,063人	精神及び行動の障害	9,947万円	12.4%	233人	2,009人
65～69歳	循環器系の疾患	2億 210万円	19.2%	1,368人	新生物	1億4,166万円	13.4%	768人	2,060人
70～74歳	循環器系の疾患	2億6,756万円	20.9%	1,744人	筋骨格系及び結合組織の疾患	1億6,923万円	13.2%	1,473人	2,039人

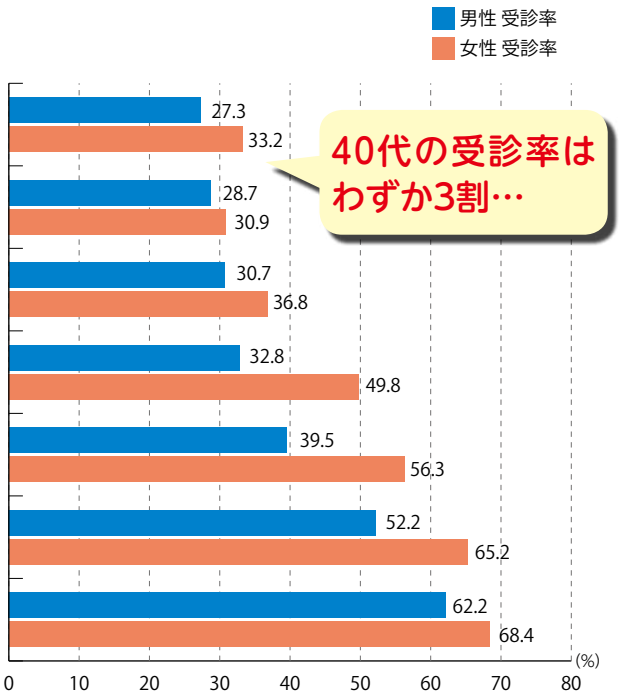
・若年層では風邪などの「**呼吸器系の疾患**」が第1位…患者数は多いが、医療費はさほどかからず
・25～59歳の中間年層では「**精神及び行動の障害**」が第1位…患者数は多くないが、入院治療が多いため医療費は多額に
・50歳以上になると、代表的な生活習慣病である「**循環器系の疾患**」が第2位に、60歳以上の高齢層では第1位に

このように年齢階層ごとに多く使われた医療費をみると特徴がよくあらわれています。年齢とともに増えてくる医療費、どうすれば節約につながるのでしょうか。

■まずは、健診を受けましょう！

特定健診受診率の状況（26年度）

年齢階層	男性			女性			合計
	対象者	受診者	受診率	対象者	受診者	受診率	受診率
40~44歳	245人	67人	27.3%	196人	65人	33.2%	29.9%
45~49歳	289人	83人	28.7%	207人	64人	30.9%	29.6%
50~54歳	362人	111人	30.7%	310人	114人	36.8%	33.5%
55~59歳	525人	172人	32.8%	466人	232人	49.8%	40.8%
60~64歳	901人	356人	39.5%	851人	479人	56.3%	47.7%
65~69歳	983人	513人	52.2%	1,032人	673人	65.2%	58.9%
70~74歳	826人	514人	62.2%	1,095人	749人	68.4%	65.7%
合計	4,131人	1,816人	44.0%	4,157人	2,376人	57.2%	50.6%



特定健診は、40歳以上75歳未満の方を対象に心臓病や脳卒中など深刻な生活習慣病の前ぶれである「メタボリックシンドローム」に着目した健診です。

平成26年度の受診率は前年を0.4ポイント下回る50.6％にとどまっています。年齢別では若い層ほど受診率が低く、40歳代は30％前後と低調です。

私たちの健康をおびやかす主な要因は、長年の生活習慣の結果である生活習慣病です。これらの多くは病気が進行するまで自覚症状はありません。

予防のために若い時から毎年、特定健診などでチェックし、早めに対処することが大切です。地道なことですが、医療費の増加をやわらげるには、このことが最も重要なことです。毎年特定健診を受診し、健康への意識を持ち続けましょう。（特に働き世代の若い皆さん！）

特定健診を受けると 医療費もオ・ト・ク!?

南九州市の特定健診を受けている人と受けていない人では、治療中の医療費にこんなに差があることがわかりました。

●高血圧のみ治療中の場合

特定健診を受けている人の医療費 …… **356,670**円／年
特定健診を受けていない人の医療費 …… **698,017**円／年

➡ その差 **341,347円!!**
（3割負担だと…）
➡**102,404**円／年

●高血圧と糖尿病を治療中の場合

特定健診を受けている人の医療費 …… **601,346**円／年
特定健診を受けていない人の医療費 … **1,248,365**円／年

➡ その差 **647,019円!!**
（3割負担だと…）
➡**194,105**円／年

（平成 26 年3月～平成 27 年2月分データより）

■国保の特別会計収支は事実上、４年連続の赤字決算見込み!!
国保税率の改正（引上げ）を検討します!

本来、国民健康保険事業など特別会計の採算は独立したものでなければなりません。しかしながら、下の表にあるとおり、国民健康保険事業特別会計の収支は年々悪化しており、平成24年度以降は一般会計からの法定外の繰入金（特例的な財政支援）で赤字を回避しており、平成27年度も3億円程度の財源不足が見込まれています。また、市の一般会計においても、収支の不足額を多額の基金繰入で補っており、今後の繰入金額を抑制せざるを得ない状況です。

医療費の支払い（歳出）に見合った国保税（歳入）が必要であるため、平成23年度以降据え置いてきた税率の見直しを検討します。

一般会計からの支援は3年累計で6億円近くに

国民健康保険特別会計決算の推移

区　分	歳　入	歳　出	差　引	歳入のうち 法定外繰入	歳入のうち 積立金取崩し	歳入のうち 借入金	年度末 積立金残高	年度末 借入金残高
平成22年度	62億6,905万円	60億5,469万円	2億1,437万円	0	2億2,270万円	4,600万円	1,513万円	4,600万円
平成23年度	63億　482万円	62億4,968万円	5,515万円	0	0	0	2,615万円	4,600万円
平成24年度	63億9,620万円	63億7,290万円	2,330万円	1億3,000万円	0	0	2,917万円	4,600万円
平成25年度	64億　742万円	63億3,734万円	7,008万円	1億7,000万円	0	0	3,120万円	3,680万円
平成26年度	63億4,012万円	62億8,852万円	5,160万円	2億9,000万円	0	0	3,484万円	2,760万円
平成27年度予算現額	69億9,611万円	69億9,611万円	0	2億8,563万円	0	0	3,748万円	1,840万円

国保税は、加入者の世帯人数や所得、固定資産などの状況に応じて負担する医療費給付の目的税です。所得の高い世帯には一定の賦課限度額を設け、また所得の少ない方には、均等割や平等割の軽減措置を講じながら各加入者世帯が納めています。

所得などの状況、年齢・世帯構成によって負担する金額も下表のように変わってきます。

国保税の税率（27年度）

区　分		医療給付費分	後期支援金分	介護納付金分	計
所得割	世帯の所得に応じて計算	6.9%	2.2%	2.1%	11.2%
資産割	世帯の資産に応じて計算	24.3%	7.5%	9.2%	41.0%
均等割額	世帯の加入者数に応じて計算	24,000円	7,200円	9,800円	41,000円
平等割額	1世帯にいくらと計算	20,000円	6,000円	5,600円	31,600円
賦課限度額		520,000円	170,000円	160,000円	850,000円

（注）40歳から64歳までの人は介護納付金分が加算されます。

年齢、世帯構成、所得などの違いによる国保税負担の比較表

ケース	想定世帯	固定資産税	他の収入との比較（所得計算上）	国保加入者	適用の有無 均等割平等割の軽減率	所得割	資産割	介護納付金分	現在の国保税年額	28年度以降？
1	世帯主30歳　単身 給与収入　84万円（月７万）	0円		1人	７割	×	×	×	17,100円	
2	世帯主45歳　妻43歳　子2人 農業所得　150万円 妻　専給　120万円	10万円	農業所得150万円は、給与収入240万円に相当	4人	２割	○	○	○	337,400円	
3	世帯主45歳　妻43歳　子2人 農業所得　300万円 妻　専給　120万円	10万円	農業所得300万円は、給与収入443万円に相当	4人	―	○	○	○	540,600円	
4	世帯主45歳　妻43歳　子2人 農業所得　620万円 妻　専給　120万円	10万円	農業所得620万円は、給与収入823万円に相当	4人	―	○	○	○	850,000円	
5	世帯主64歳　妻64歳 夫 年金収入 120万円 妻　〃　110万円	2万円	年金収入120万円は、給与収入115万円に相当 年金収入110万円は、給与収入105万円に相当	2人	２割	○	○	○	125,900円	
6	世帯主64歳　妻64歳 夫 年金収入 100万円 妻　〃　90万円	1万円	年金収入100万円は、給与収入　95万円に相当 年金収入　90万円は、給与収入　85万円に相当	2人	５割	×	○	○	60,900円	
7	世帯主72歳　妻72歳 夫 年金収入 250万円 妻　〃　70万円	2万円	（65歳以上） 年金収入250万円は、給与収入211万円に相当	2人	―	○	○	×	183,000円	
8	世帯主72歳　妻72歳 夫 年金収入 180万円 妻　〃　50万円	1万円	（65歳以上） 年金収入180万円は、給与収入125万円に相当	2人	５割	○	○	×	71,900円	
9	世帯主72歳　妻72歳 夫 年金収入　70万円 妻　〃　70万円	1万円		2人	７割	×	○	×	29,700円	
10	世帯主72歳　単身 年金収入　70万円	0円		1人	７割	×	×	×	17,100円	

■最後に

南九州市の国民健康保険の財政運営を安定したものにするためには、医療費の節約が欠かせません。税の負担増をなるべく抑えていくためにも、次のことを意識しましょう!

1　若いうちから健診を受けましょう。国保の人も、社保の人も。
～齢を重ねても健康で活き活きと暮らすために!!～

2　必要な治療はしっかり続けて、重症化を防ぎましょう。

［担当］川 健康増進課 保険係